学位論文審査の結果の要旨

吉原　正人

本研究は、東京都のカラス対策事業によって都心と郊外で捕獲されたカラス５千羽（捕獲数の１割）を用いて、２地域で捕獲されたカラスの性・齢クラスの季節変化、体格と栄養状態、発育過程における栄養状態の推移を比較したものである。

その結果、トラップで捕獲されたカラスでは、生ゴミに依存する都心では幼鳥が大半を占めるのに対し郊外では半数近くを成鳥が占め、都心での駆除は幼鳥駆除となっていること、都心のカラスは郊外よりも特に幼鳥の体重が軽く、栄養状態が悪く、多くが短期間のうちに自然死していることが示唆された。これらの結果は、都心のカラスの個体数管理を効率的に実施するうえで、駆除対象を幼鳥から成鳥へとシフトする必要性を示唆している。

審査会では、膨大な試料に基づいた捕獲パターン分析をもとに、地域特性を生かした具体的なカラスの個体群管理に提言を行ったことについて高く評価された。なお、審査会において学位論文名に用いられていた「都心で密生する」という表現は適切でないため「都心に高密度で生息する」と改めることが指摘され、学位論文名を変更した。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

吉原　正人

最終試験は、平成２９年１月１６日に東京農工大学農学部において、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は吉原正人氏が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。